

## 1. 活動報告（事務局 記）

—9月6日（日）会員でのミーティングは厚東川水系協議会からの連絡を説明し、次回に臨時総会をして協議することになりました。

維持活動は

- ①田んぼ周辺の稲刈り前の最終草刈
- ②前回刈り取った草の処分で残り焼却処分
- ③エコアップ（タテバチドメグサ抜き取り）

16名の参加でした。残暑厳しい折お疲れ様でした。

—9月10日（木）朝、湿地帯水レベルが”0”になっていました、緊急ハス田、ため池、田んぼから放水し水レベル復旧に努めました。元因は排水部土手の崩壊、外面は何ら変わりはなく内部は大崩壊して小さな穴が底辺にありました。夕方、湿地帯の水漏れ緊急復旧作業を行いました。地元の若林会員、藤村会員、吉富会員、内藤会員、と事務局で排水溝横の、大穴の掘り起こしと土嚢10袋他粘土質の泥で完全補修しました。お騒がせしましたがなんとかメダカ、田エビ、水中昆虫も生きながらえて安心しました。

—9月19日（土）維持活動を中止し、臨時総会を開催しました。

話し合いの結果、借用地契約切れ後のつくる会の方針について

- a) つくる会活動は引き続き行いたい。
- b) NPO法人化はしたくない。
- c) 積立基金を宇部市に寄贈し、市主体で借用地を購入して頂く。
- d) つくる会は市から優先的に借用し維持管理を継続する。

以上が「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」の基本的な考えとなりました。出席30名、会長委任状21名で、会員64名中51名合意

以上の事柄を「厚東川水系・森・川・海ネットワーク協議会」に回答として申し上げる。

また今後はつくる会と地権者との直接に貸借契約は行わないことになりました。

—9月23日（水）臨時総会での決議事項詳細を会長とまとめの上、厚東川水系協議会に郵送済

その他 毎週土、日に、タテバチドメグサの間引を前田歳朗エコアップリーダーが活動されています。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

予定はありません

◎ 行事

—10月4日（日） 地元の行事が多いので活動は中止

—10月17日（土）（午前）稲刈り（熟れ具合によっては遅れることもあります。）

（午後）里山自然観察隊（森の探険）

### 3. 来訪者の声（ 東屋のノートより一部抜粋 ）

—8月27日—午後2時ごろ夫婦二人でやってきました。丁度一番暑い日中でしたが、風は涼しく爽やかで気持ちよく散歩をしました。

メダカが春に比べて少し増えた様子、タニシも少しいた。ミズスマシ、ゲンゴロウ、田ガメは一匹も見えなかった様子。春にはアメンボがいたが今日は見えなかった。睡蓮の花とコウホネはたくさん咲いていた。コウホネは珍しいですね。手入れをされる方は大変と思いますが、こんな田舎の風景はだんだんと消えて行っているの、ずっと残して欲しいと思います。

よろしく

73歳

—9月11日—高齢者ハイキングの下見にインターネットを見て、やってきました。これだけ広い面積がよく手入れされていることに驚きました。これからも年間を通じてよろしいいただきます。頑張ってください。

山口市フォーマン5号

—9月19日—スタッフの皆様いつもご苦労様です。おかげ様で大好きなトンボにたくさん会うことができます。

舟木 丸み

### 4. 会員の声

「今後のビオトープ」 （ 原田満洲夫 記 ）

春の日本水環境学会から水環境文化賞の表彰をうけ、更にビオトープを訪れる方が増えてまいりました。訪問者の気づきノートには“よく整理されている”、“いつまでも頑張ってください”とか激励を受けています。残念なことに、夏の沢登の時、須賀河内川の中には黒いナイロンや肥料袋、刈った草、空き缶等がたくさんあり誠に残念でなりません。前のようにビオトープ内だけの活動で手が回らないことも原因の一つであろう。

我々「つくる会」の母体である厚東川水系森・川・海水環境ネットワーク協議会も近い将来この事業が終わりになるとの情報を受け、予算的にも含め、さらにこの場所の維持管理は大変なものになると予想されます。さらに10年目を迎え会員ほとんどは創設時からで約10年の歳をとったわけで活動も次第々々に困難となって来た。若い会員の力を借るべき若い会員を募らなければとつくづく思うようになってきた。

「ビオトープで一句」 （ 内藤 武頭 記 ）

棚田からビオトープの稲田を眺めた。空気も旨い。やがて、収穫の稲田だ。今年は田植え、田草とり、蝗（イナゴ）の捕獲等いろいろとたのしんだ稲田だった。毎回腰を伸ばすのが大変でした。自分ではちゃんと伸ばしたつもりでも、遠くから「腰が曲がっちゃよぞ！」と声がかかる。漫談家綾小路きみまろの演じる古女房の姿を連想する。今年は早々と敬老の日の案内を受けた。アルコールもビールから日本酒へとチェンジしてみた。けどビールののど越しの味がもうしみついてた。ビールを飲みながら、TVの句会を見た。兼題は蝗（イナゴ）だった。8月上旬の朝「イナゴの発生にもう手がおえん。すぐ集まって欲しい」と原田事務局長よりTELが入った。まるで蝗（イナゴ）の大群に襲われているような声だった。5人のメンバーが集まった。手に網を持って稲田に散った。目の前のイナゴが一斉に飛んだ。目の前が銀色に染まった。原田事務局長「この景色を俳句に詠んだら・・・」とのことでして

そこで一句 —7人の 侍散って 蝗獲り— 5人はドラマチックに7人に脚色しました。

もう一句 —虫籠の 蝗の顔は みな幼—

## 5. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

### (16) マユタテアカネ (アカネ属) *Sympetrum infuscatam* (Selys)

日本国内ほぼ全域に生息し、6月から12月前後まで見られる県内では一般的な赤トンボです。平地や丘陵地、低山地の植生豊かな池や湿地、水田、溝川などに生息します。

顔の前面に黒い小さな眉状班があり、これが名前の由来のようです。翅の両先端に茶褐色の斑の出る固体や、メス(♀)の体色がオス(♂)に似て赤い色の固体もいます。

羽化して間もない固体は体色が黄色に黒の模様であり赤トンボとは思えませんが、顔の眉班と胸の模様をみて確認しましょう。県内にアカネ属は12種ほどいますが、秋になるとしっかりと体色も整うので違いがわかります、池の周りや水田近く、林縁部の道端などにはたくさん見られますので探してみましよう。



成熟した♂



交尾連結 上♂ 下♀



♂ 顔に二つ黒色の眉班がある



♀の顔にも黒色の眉班がある



♂と同色の赤色型♀



翅の先が黒褐色のツマ黒型の♀

## 6. 会よりの連絡事項（事務局より）

### 「100号の記事」

今年の11月には会報もいよいよ100号となります。皆様の記事（会員の声、情報提供、ビオトープ関連事項など）提供をお願いします。11月にもらったのでは、会報の編集に時間が掛かりますので、早めをお願いします。文章を書かれた方は、原田事務局長へ、メールの方は、原田事務局長または西原編集責任者へ提出して下さい。

会報100号は、特別に印刷などはしませんが、写真などが多い場合には良質の紙に印刷します。また、100号についての提案などがあれば連絡をお願いします。

### 「お知らせ」

宇部市地球温暖化対策ネットワーク幹事会

田村勝芳

8月6日に第2回幹事会が開催されて本年度も里山ビオトープ二俣瀬を作る会に対して環境教育活動の支援として助成金が支払われたと報告されました。ビオトープ以外では宇部子供体験クラブ、コープやまぐち、の団体が支援を受けています。

本年度の活動で主なものは下記の項目です。

- 1 各種イベントでの啓発活動 宇部まつり他
- 2 省エネ家電普及促進事業 省エネマイスターによる診断
- 3 低炭素まちづくり面的推進事業 公共交通機関や自転車の利用促進
- 4 温暖化防止活動推進 省エネ相談窓口設置

## 7. 編集後記

エコアップ担当となって、半年が過ぎました。今年は試行錯誤（行き当たりばったり）しながら過ごし、記録写真さえ撮っていません。来年のエコアップは、計画性のあるものにしなければと考えています。

問題は、繁茂した水生植物の間引き、堆積した底泥の除去の方法・時期です。参考文献を見ると“こんな面倒くさいことが出来るか”と思うような方法が書いてありました。水生生物、植物の種子の保全を考慮すると当然のことでしょうが。間引きの時期についても、文献の記載と、私の考える時期とは異なっていました。難しいです。

来年のエコアップは、皆さんの御意見を参考にしながら、自己流かつ計画的に行おうと思っています。記録は毎月欠かさず残し、再来年の参考にします。ただし、来年以降ビオトープが残っていればの話ですが。

（ 前田 歳朗 記 ）

里山ビオトープ二俣瀬もいよいよ10年目が目前にせまってきました。あらためて設立当初からの経緯をみつめ、厚東川水系・森・川・海・水環境ネットワーク協議会との関係を思い起こしました。これからの活動についての最終的結論をせまられる会議が行われましたが、高齢化も進む中にあってもやめてしまおうともせず如何にすれば継続可能か と言う話し合いになりました。これからも引き続き活動を続けられる環境へ問題が解決してくれる事を願います。

（ 松本 フデ子 記 ）